



## 心電図検査②

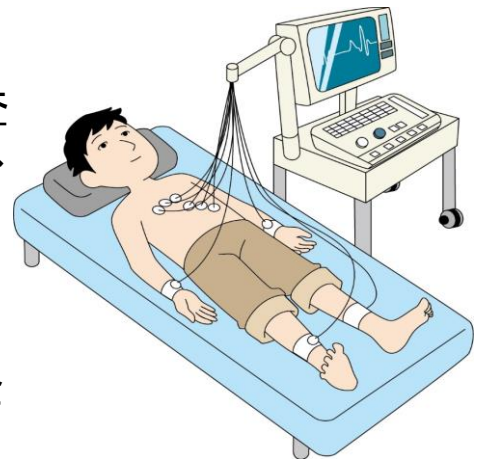
心電図検査について今回は心電図検査①で心電図検査で何がわかるか、そして異常心電図（不整脈編）ご紹介しました。今回は心電図検査の方法や注意点と異常心電図について説明していきます。

心電図検査は心臓の動きが簡単に検査できるため、健康診断などで受ける機会が多い検査です。もし心電図検査を受けることがあったら参考にしてみてください。

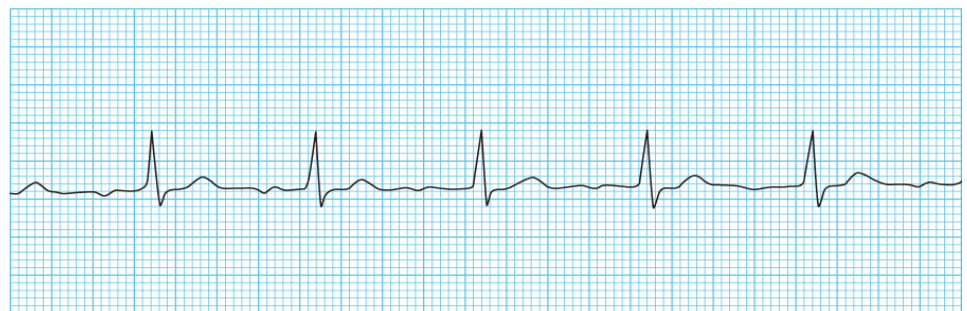
### 心電図検査の方法

心電図検査は心臓の検査ですが、両手首と両足首、また胸に心臓の微弱な電気をひろう電極を体につけて検査をします。そのため検査前は手首と足首と胸が出るよう準備が必要になります。また電極をつけるところに腕時計など金属のものがあると、心臓から出る電気信号が電極にうまく伝わらないことがあります。可能であれば腕時計などの金属は外す方がいいです。携帯電話は心電図検査にほとんど影響は出ないので、ポケットに入れたり、近くに置いていても大丈夫です。

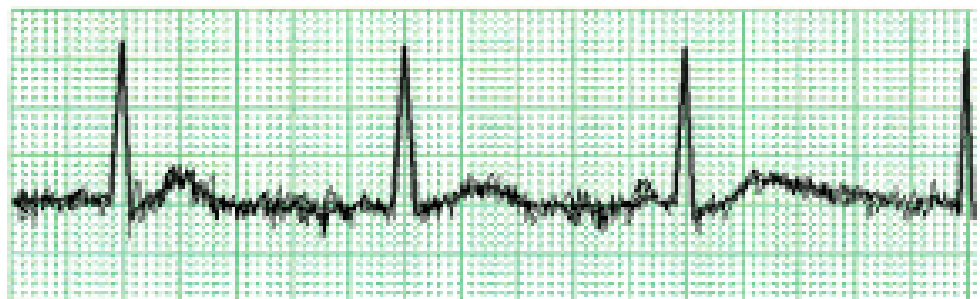
検査中の注意点として、心電図は微弱な電気信号を見ているため、体に力が入ると筋肉から筋電図という筋肉の信号が心臓の電気信号と合わさり、下の波形のように心電図の波形がきれいに出ないことがあります。そのため心電図を検査する時は全身の力をぬいてリラックスをした状態で検査を受けることが重要です。



通常的心電図



筋電図が入った心電図



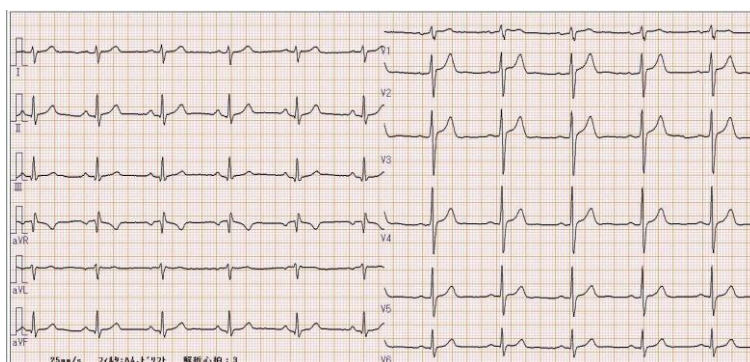
## 異常な心電図

### ・心筋梗塞

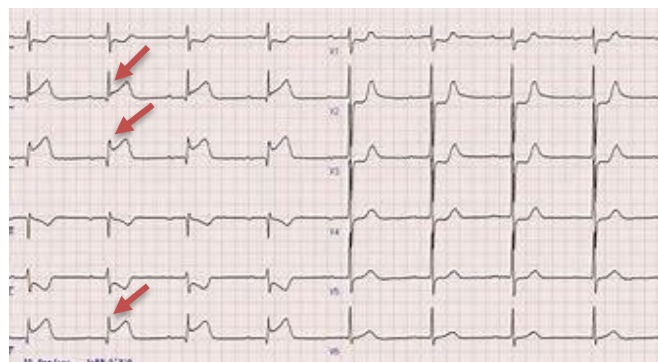
心筋梗塞は心臓の筋肉に栄養を送っている冠動脈が詰まり、心臓の筋肉(心筋)の動きが悪くなる病気です。

心筋梗塞の心電図波形は、左の正常心電図と比べると異常心電図の赤矢印の部分の線が上にあがっています。このような異常波形が見られる場合、冠動脈が詰まっている状態になっています。

正常心電図



異常心電図



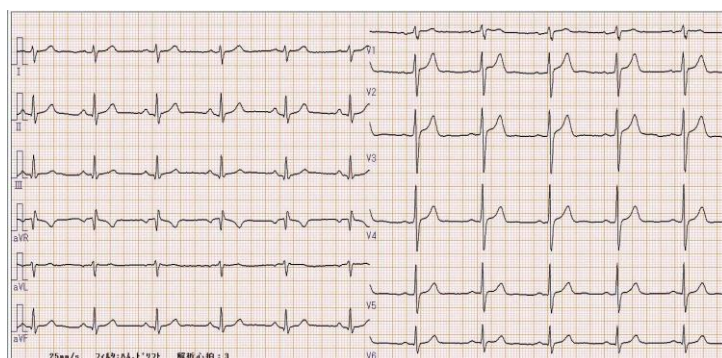
### ・ブルガダ症候群

ブルガダ症候群とは普段は問題なく心臓が動いていますが、突然危険な不整脈がおこって心臓が動かなくなり、死亡する可能性がある病気です。この病気は親族にブルガダ症候群の方がいる場合もありますが、日本ではこのような家族歴がなくても発症することが多く、30～50歳代の男性に多い傾向にあります。

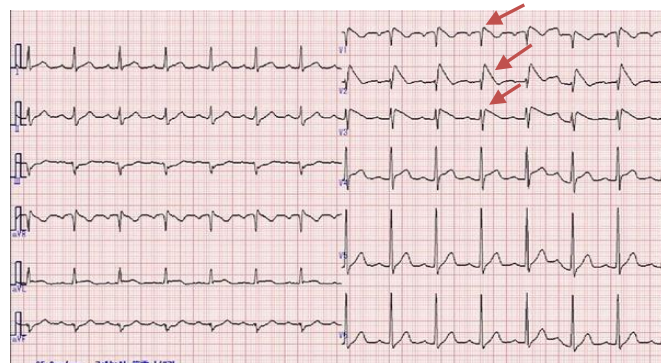
ブルガダ症候群は健康診断の心電図などで約0.2%でみつき、病院で問診や詳細な検査を行い将来不整脈を起こす危険性が低いと判断されれば、ほとんどの人は経過観察で良いとされます。しかし失神したことがあったり、親族に若くして突然死をした人がいる場合にはさらに詳しい検査が必要になる場合があります。

異常心電図の特徴は左の正常心電図に比べて赤矢印の線が上にあがります。このような異常波形が見られる場合、ブルガダ症候群疑いとなります。

正常心電図



異常心電図



検査について詳しく知りたい方は、医師にご相談ください。